

かつの上水道だより

大楽前沢川水源の様子
(十和田水系)



前は、主に市水道の概要についてお伝えしましたが、
今回は、令和5年度の水道事業会計決算から見える将来の
見通しや課題についてお伝えします。

前回の「上水道だより」は、右の
「QRコード」から直接市のホーム
ページで閲覧することができます。

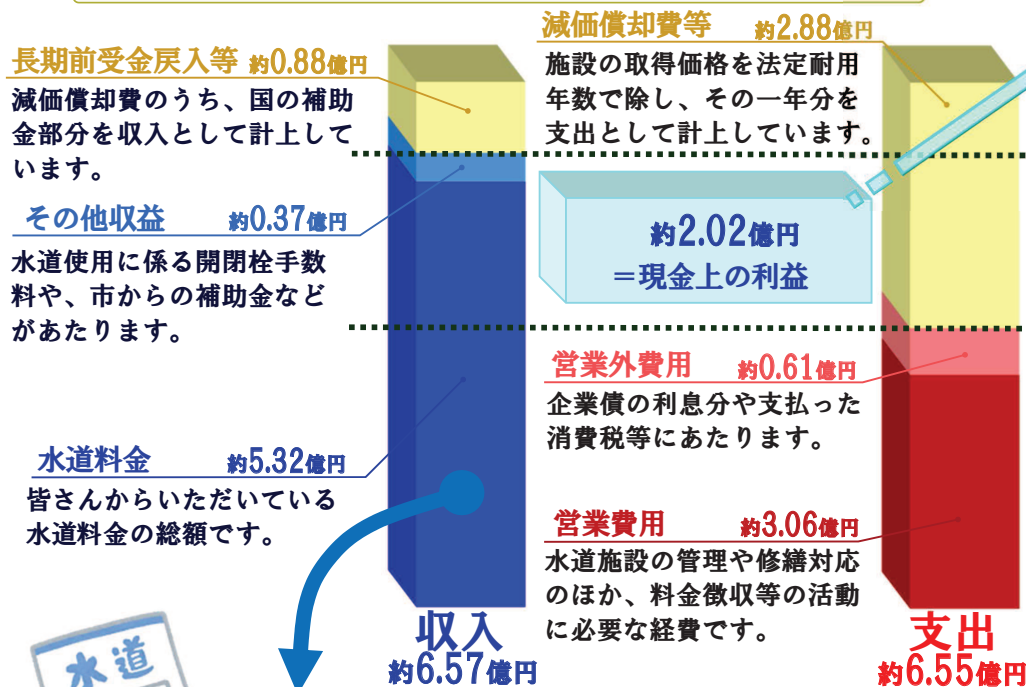


令和5年度収支決算の状況

水道事業は2つの収支（収益的収支と資本的収支）に分けて経理することで、現状や課題を的確に把握することができます。

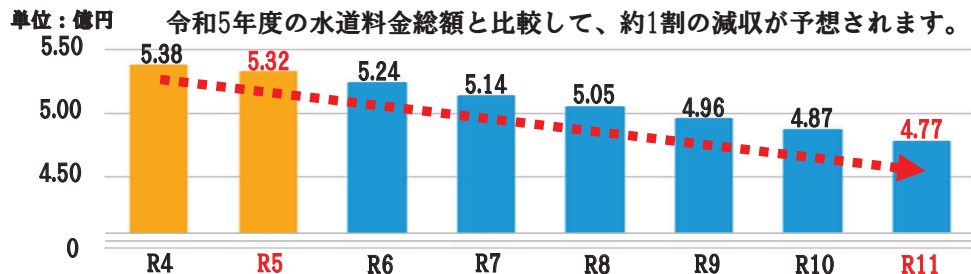
(1) 収益的収支 ～日々の営業活動に必要な収支（税込額）～

注意：棒グラフの黄色部分は会計上の処理で、実際の現金収支はありません。

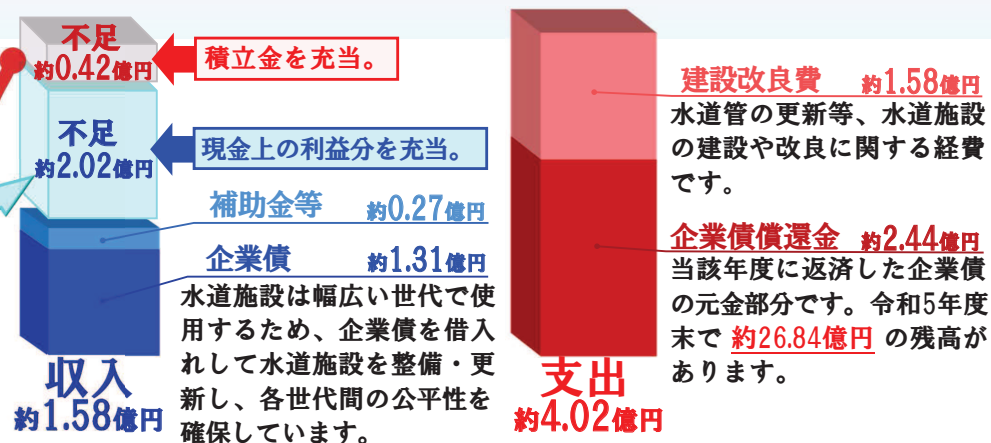


料金収入の今後の見込み

人口減少に伴い、使用される水量も減少すると見込まれることから、水道料金収入も右肩下がりになると見込まれます。令和11年度では、令和5年度の水道料金総額と比較して、約1割の減収が予想されます。

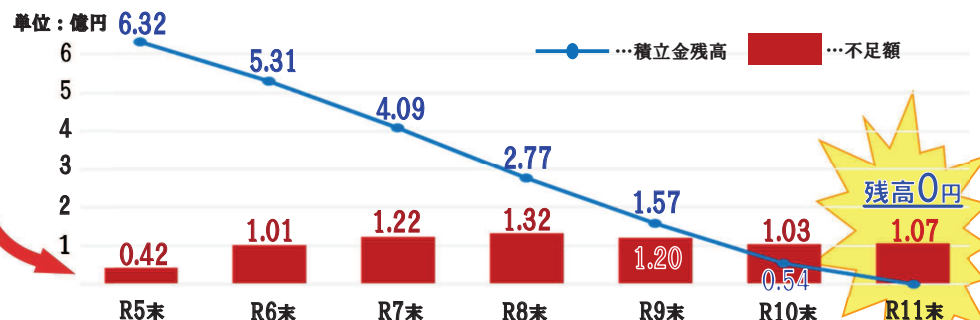


(2) 資本的収支 ～施設の建設や改良などに必要な収支（税込額）～



不足額と積立金残高の将来予測

水道事業では、災害復旧等での急な出費に備えるため、積立金を蓄えています。しかし、令和5年度に初めて積立金を収支不足分に充当しています（令和5年度末残高：約6.32億円）。そこで、令和11年度末までの水道事業の不足額と積立金残高の推移を予測してみます。



料金収入が減少する見込みの中で、施設更新や企業債償還等の支払いが続きます。このままでは今後も積立金を活用せざるを得ず、令和11年度末には積立金が底をつき、収支不足も解消できないため、水道事業に大きな支障が出てしまいます。

水道事業の持続可能な経営のため、事業の効率化（費用削減）と併せて、水道料金の改定について検討を進めています。

水道管の更新・修繕について

市が管理する水道管の約19%が、耐用年数である40年を経過しており、老朽化に伴う漏水が発生し、随時修繕を行っています。

令和5年度末の水道管更新状況

	延長(km)	割合(%)
①市で管理する管路	約 380km	100%
②更新が必要な管路	約 72.2km	19%
③R5に更新した管路	約 0.84km	<u>0.2%</u>

令和5年度末で更新が必要な水道管の工事が終了するには・・・

$$\textcircled{2} \text{【72.2km】} \div \textcircled{3} \text{【0.84km】} = \mathbf{86\text{年}}$$

企業債や補助金等を活用して、水道管の更新を今まで以上のペースで進める必要があります。

①修繕前



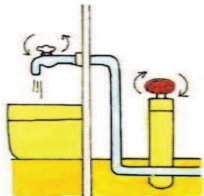
②修繕後



information ～水道の冬じたく～

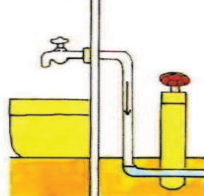
気温が氷点下になると、水道水が凍り、給水管や蛇口等を破損させてしまうことがあります。これを防止するには「水抜き」が有効ですが、**正しい手順で「水抜き」を行きましょう。**

(1) 水を抜くとき



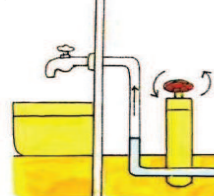
- ①蛇口をいっぱいに出す。
②水抜栓のバルブを閉める。

(2) 水抜き後



- ①蛇口は開いたままにしておく。

(3) 水を使うとき



- ①水抜栓のバルブを開ける。

水道が凍って出ないとき

水道管や蛇口にタオルなどを巻き、蛇口を開けその上からぬるま湯をかけて溶かして下さい。
直接熱湯をかけると水道管が破損することがあります。



もし水道管が破裂した場合は、下のQRコードを読み取り、指定工事事業者へ直接連絡して修理を依頼してください。



市HPへ

